



◆診療科紹介 リウマチ・膠原病内科 笠間 毅

江東豊洲病院の内科は5つの専門科で構成されていますが、リウマチ・膠原病内科もそのうちの一つの診療科です。リウマチ膠原病疾患といってもわかりにくいかもしれませんが、関節リウマチがその代表疾患です。本邦では60-70万人以上の患者さんがいると考えられます。

そのほかにも若い女性に多い全身性エリテマトーデス（SLE）や全身の皮膚が硬くなる強皮症、炎症性筋疾患などがあります。このような病気では発熱や関節の痛み、腫脹やこわばり感、あるいは皮膚の発疹や手指の冷感（レイノー現象）などがみられます。また口内炎な

どを繰り返すベーチェット病や全身臓器に異常を認める血管炎症候群なども私たちが専門とする疾患です。原因のはっきりしない長く続く発熱や関節症状などがある場合にはリウマチ膠原病疾患も疑われますので一度精密検査を受けられることをお勧めします。現在ではリウマチ膠原病疾患、とくに関節リウマチなどには効果的な治療薬である生物学的製剤が積極的に使われるようになってきており、寛解や治癒も可能となってきています。コントロール不良・困難な症例などがありましたらぜひご紹介ください。また安定期に入られた患者さんには意向を確認したうえで、近隣の医院や診療所などにも逆紹介をして病診連携を積極的に行っております。



リウマチ・膠原病内科スタッフ 左から西見、磯崎、笠間、徳永



第7号のピックアップ

- ・ 診療科紹介
 - リウマチ・膠原病内科—
 - 呼吸器・アレルギー内科—
- ・ 部門紹介
 - 中央材料室—

◆診療科紹介 呼吸器・アレルギー内科 岡田 壮令

江東豊洲病院呼吸器・アレルギー内科は内科系診療センターの一部門として 呼吸器疾患を中心に内科一般診療を行っています。

当科は昭和大学本院の旧第一内科、現呼吸器・アレルギー内科の流れを汲み、その伝統にならい気管支喘息の診断、治療や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの診療を得意としています。難治性気管支喘息なども積極的に受け入れ、オマリズマブによる抗IgE抗体療法なども行っています。日常診療における難治性、遷延性咳嗽にこれらの疾患が含まれている可能性もあり、他疾患の鑑別も含め、咳などで困りの症例があれば承っています。

健康診断にて指摘される胸部異常影の二次、三次検診などの精査も行っており、徐々に件数も増加してきています。これらに関わる気管支鏡検査も最初の2、3ヶ月は月2～3件でした。まだ、週に半日枠での施行ですが、夏以降、月8～10件程度に増加しています。それに伴い、肺結核症の診断例や、また、最近社会的にも増加傾向にあるとされる肺非結核性抗酸菌症の診断、治療導入などの件数が当院においても増加しております。さらに、胸部異常影を機に発見された肺癌症例も増加しつつあり、手術適応症例以外の肺癌症例において、放射線治療科の協力のもと放射線治療や、同じ内科系診療センターの腫瘍内科の協力を得て化学療法なども行っております。

それら以外にも初発の自然気胸や細菌性肺炎、間質性肺炎など対応なものであれば随時対応しています。



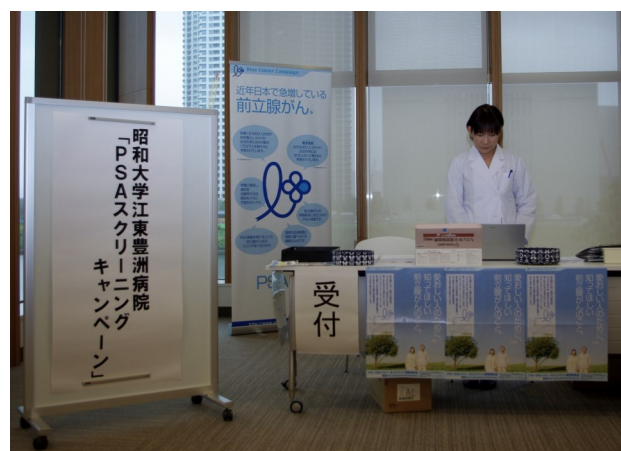
呼吸器・アレルギー内科スタッフ 左から本間、岡田、渡邊

本年3月の開院以来半年間、当科は2名体制で、なにぶん少人数故、当科的疾患の診療でも他の内科系診療センターの協力を得ながら業務を進めている状況でもあり、皆様のご期待に充分沿えているわけではないと認識しています。今後、禁煙外来を含めた禁煙指導の充実や、呼吸器リハビリテーションなどの強化、睡眠時無呼吸症候群の診断、治療導入体制の確立などを念頭に置きつつ、よりいっそうの診療体制の充実を図るよう気を引き締めて努力する所存です。どうか温かく見守ってください。



気管支鏡検査風景

2014年10月19日（日）PSAスクリーニングキャンペーンで市民公開講座を、2回（内容は同じです）開催いたしました。テーマは「前立腺がんってどんな病気？PSAって何ですか？」泌尿器科深貝教授が「前立腺がんの予防」、泌尿器科森田講師が「前立腺がんの治療」、泌尿器科五十嵐講師が「前立腺がんとは？」の演題で講演しました。今回は、事前申込とさせていただきますが、すぐに定員に達しまうほど前立腺ガンについての関心の深さがわかりました。また、PSA検診（問診と採血）を19日（日）～22日（水）の4日間実施し、313名の方が受診されました。



◆部門紹介 中央材料室 山川 雄介

中央材料室は病院職員の方でも、詳しい業務内容が分からず、「一体何をやっているのだろうか?」といったイメージを持たれている方もいらっしゃるかと思います。



業務内容を簡単に説明しますと、手術や病棟・外来・検査等で使用した器材を検品・洗浄・滅菌して、再び安全に使用できる器械として各部署へ供給する仕事であり、微力ながら感染防止の一翼を担っております。

また手術で使用する医療材料や器材を集め準備するピッキング業務も行っており、患者さんが安心・安全に手術が受けられる環境を整えるのが一番の使命です。

完全に裏方の仕事となりますので、直接、患者さんから感謝の言葉を頂けるわけではありません。また、スタンダードプリコーション（標準予防策）を遵守して、慎重に業務を行っておりますが、血液や体液の付着した器械を取り扱うこととなりますので、感染リスクが高い仕事となります。

それでも、患者さんの安全を確立させる為にミスは許されない仕事である為、医療従事者として、プロフェッショナルとして自覚を持ち、自信をもって供給できる様な意識を常に持ちながらスタッフ一同、全力で業務に励んでおります。

いがわ みお

編集後記 こどもセンター 井川 三緒

残暑ようやく衰え、朝夕はめっきり涼しくなりました。さわやかな季節となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。昭和大学江東豊洲病院も開院して半年が経ち、徐々に軌道に乗りつつあります。今後も江東区周辺地域の医療に貢献できるようスタッフ一同努めてまいります。毎年この時期、季節の変わり目は体調を崩される方が多くいらっしゃいますが、皆様お体には十分お気をつけ下さいませ。